

官報

號外

昭和十六年二月五日

○第七十六回 衆議院議事速記録第十號

帝國議會

昭和十六年二月四日(火曜日)

午後一時七分開議

議事日程 第九號

昭和十六年二月四日

午後一時開議

第一 軍機保護法中改正法律案(政府提出)

第二 衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案(政府提出)

第三 府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案(政府提出)

第四 昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出)

第五 相續稅法中改正法律案(政府提出)

第六 臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

第七 帝都高速度交通營團法案(政府提出)

第八 民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第九 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十 戶籍法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十一 昭和十六年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第十二 昭和十五年法律第七號中改正法律案(造幣局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル經費ニ關スル件)(政府提出)

第十三 昭和十三年法律第二十三號中改正法律案(關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件)(政府提出)

第十四 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)

第十五 朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第十六 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)

第十七 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)

第十八 朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第十九 朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第二十 朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第二十一 朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第二十二 朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第十六 臺灣事業公債法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

恩給法中改正法律案

義務教育費國庫負擔法中改正法律案

小學校令ノ改正ニ伴フ恩給法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律案

國民勞務手帳法案

(以上二月四日提出)

[左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲

茲ニ掲載ス]

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

貸家組合法案

住宅營團法案

醫療保護法案

(以上二月三日提出)

一 昨三日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案

左ノ如シ

一 昨三日政府ヨリ昭和十四年度國有財産増減總計算書及之ニ添附スベキ各省ノ同増減報告書並會計檢査院檢査報告ヲ受領セリ

一去二日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

健康保險法中改正法律案(政府提出)委員

委員長 野田 俊作君

理事

小野 廉君

林 讓治君

渡邊 健君

無盡業法中改正法律案(政府提出)委員

委員長

理事

愛野時一郎君

仲西 三良君

樺太開發株式會社法案(政府提出)委員

委員長

理事

田代 正治君

松浦周太郎君

兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員

委員長

理事

伊藤東一郎君

最上 政三君

國家總動員法中改正法律案(政府提出)委員

委員長

理事

伊藤 五郎君

小山倉之助君

長井 源君

守屋 榮夫君

日本發送電株式會社法中改正法律案(政府提出)委員

委員長

理事

田中 万逸君

內藤 守正君

山田 清君

大野 伴陸君

坪山 德彌君

手代木隆吉君

松尾 孝之君

沖島 鎌三君

漢那 憲和君

小山田義孝君

依光 好秋君

山崎達之輔君

上田 孝吉君

中野 治介君

原口初太郎君

野田 俊作君

田中 万逸君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

野田 俊作君

明治二十五年三月三十日
第三號(復物)認可

理事

大本貞太郎君 塚本 三君

増永 元也君

一去二日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

健康保險法中改正法律案(政府提出)委員

辭任杉浦 武雄君 補闕田中 養達君

無盡業法中改正法律案(政府提出)委員

辭任田中 養達君 補闕杉浦 武雄君

辭任清瀨規矩雄君 補闕窪井 義道君

樺太開發株式會社法案(政府提出)委員

辭任田中 邦治君 補闕服部 英明君

兵役法中改正法律案(政府提出)貴族院送付)外二件委員

辭任松岡 俊三君 補闕淺井 茂猪君

日本發送電株式會社法中改正法律案(政府提出)委員

辭任牧野 良三君 補闕名川 侃市君

一昨三日近衛内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令

アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

企書院部長 中島 清二

同 小松 茂

同 藤澤 威雄

同 大藏書記官 坂口 芳久

第七十六回帝國議會政府委員被仰付

第七十六回帝國議會大藏省所管事務政府委員被仰付

司法書記官 大竹武七郎

第七十六回帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

一昨三日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任

委員左ノ如シ

第一部選出豫算委員 窪井 義道君

第七部選出豫算委員 平川松太郎君

一昨三日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

國家總動員法中改正法律案(政府提出)委員

辭任久山 知之君 補闕小山田義孝君

兵役法中改正法律案(政府提出)貴族院送付)外二件委員

辭任小山田義孝君 補闕工藤十三雄君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス、御諮リ致シマス、第六部選出決算委員

中野寅吉君、第八部選出建議委員松岡俊三

君、第九部選出請願委員玉野知義君、右常

任委員辭任ノ申出ガアリマス、之ヲ許可ス

ルニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ許可スルニ決シマシタ、其ノ部ノ

諸君ハ速カニ補闕選舉ヲ行ヒ御届ケアラン

コトヲ望ミマス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ

提出致シマス、即チ此ノ際日程第十一乃至

第十六ノ六案ヲ繰上ゲ一括上程シ、其ノ審

議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異

議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラマレシタ

日

程第十一、昭和十六年度一般會計歲出ノ

財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、

日程第十二、昭和十五年法律第七號中改正

法律案、日程第十三、昭和十三年法律第二

十三號中改正法律案、日程第十四、朝鮮事

業公債法中改正法律案、日程第十五、朝鮮

鐵道用品資金會計法中改正法律案、日程第

十六、臺灣事業公債法中改正法律案、右六

案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委

員長ノ報告ヲ求メマス——委員長松田正一

君

第十一 昭和十六年度一般會計歲出ノ

財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法

律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 昭和十五年法律第七號中改正

法律案(造幣局東京出張所ノ廳舎、工

場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新

營擴張ニ要スル經費ニ關スル件)

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十三 昭和十三年法律第二十三號中

改正法律案(關東局、朝鮮總督府、臺

灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於

ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額

等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルル

コトニ關スル件)(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 朝鮮事業公債法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 朝鮮鐵道用品資金會計法中改

正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 臺灣事業公債法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一昭和十六年度一般會計歲出ノ財源ニ充

ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府

提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十六年二月二日

委員長 松田 正一

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一昭和十五年法律第七號中改正法律案

(造幣局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ

他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ

要スル經費ニ關スル件)(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十六年二月二日

委員長 松田 正一

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一昭和十三年法律第二十三號中改正法律

案(關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及

樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入

ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十六年二月二日

委員長 松田 正一

衆議院議長小山松壽殿

ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件)

(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二日

委員長 松田 正一

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二日

委員長 松田 正一

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二日

委員長 松田 正一

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二日

委員長 松田 正一

衆議院議長小山松壽殿

(松田正一君登壇)

○松田正一君 只今議題トナリマシタ昭和十六年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外五件ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ一括シテ御報告申上ゲマス

先ヅ昭和十六年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ハ、昭和十六年度ノ一般會計ノ歳出六十八億六千三百二十餘萬圓、之ニ對シ普通歳入及ビ前年ノ剩餘金ノ合計四十九億八千三百九十餘萬圓ト、現行法ニ依ツテ公債ノ發行出來得ル額二千萬圓、之ヲ合計致シマシタ金額ヲ、此ノ歳出カラ差引キマス、不足額ガ十八億五千九百三十萬圓トナリマス、之ヲ公債財源ニ求メントスル法律案、次ニ昭和十五年法律第七號中改正法律案、本案ハ造幣局ノ東京出張所ノ廳舎竝ニ其ノ他ノ建物ヲ増築致シマスル經費百五十萬圓ヲ、造幣局資金ヨリ一般會計ニ繰入ヲナサントスル法律案、及ビ既定年度ヲ一箇年延長セントスル法律案デアリマス、次ニ昭和十三年法律第二十三號中改正法律案、是ハ外地ノ租稅收入ノ一部ヲ、徵稅費ヲ差引キマシタ其ノ殘額ノ八割ヲ、臨時軍事費特別會計ニ繰入レルト云フ法律ノ中デ、關東局ノ特別會計ヨリ繰入レル煙草稅ガ今マデナカツタモノヲ、

之ヲ加ヘヨウト云フ法律案、次ニ朝鮮事業公債法中改正法律案、是ハ朝鮮事業ノ經費支辨ノ爲ニ公債ヲ二億七千二百二十萬圓増發シタイト云フ法律案、次ニ朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案、是ハ朝鮮鐵道用品特別會計法ニ所要金額三百万圓トナツテ居リマスルモノヲ、一千萬圓ニ増額致シマシテ、其ノ不足額ヲ朝鮮鐵道事業ノ狀況ニ應ジマシテ、朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入レントスル法律案、最後ニ臺灣事業公債法中改正法律案、是ハ臺灣事業費支辨ノ爲ニ四百四十萬圓ノ公債ヲ發行セントスルノデアリマスルガ、現行法ニ於テ發行餘力六十餘萬圓アリマスノデ、之ヲ差引キマシタ三百九十萬圓ノ公債ヲ増發シタイト云フ法律案以上六件ニ對シテ委員會ハ審査ノ爲ニ、一月二十四日ヨリ去ル二月二日ニ至ルマデ、八回委員會ヲ開キマシテ、各委員ヨリ御質問ガアツタノデゴザイマスルガ、其ノ大要ハ速記録ニ於テ御覽ヲ願ヒタイ、唯茲ニ極メテ簡單ニ其ノ要點ダケヲ御報告申上ゲマス

先ヅ以テ御斷リ致シテ置キマスガ、歳出ノ財源ヲ求メル爲ノ發行公債ヲ一名赤字公債ト申シマスルカラ、用語ヲ赤字公債ト申シマス、右御承知置キヲ願ヒタイ、委員會カラ赤字公債發行ノ途ガ開ケテカラ、是ハ臨時部ハ別デスケレドモ、一般會計其ノ他ノ豫算ヲ要求スル時ニ、財源ガナカツタナラバ赤字公債ニ依ツタラ宜イデヤナイカ、財源ガナケレバ何時モノ通り赤字公債ニ求メレバ宜イデヤナイカト言ウテ、赤字公債ノ發行ヲ口實ニ致シテ、時局便乗ノ豫算ガ多ク要求サレルヤウナ處ガナイカト云フ御質問ガアツタ、ソレカラ政府ハ年々自然増收ガ多イガ、此ノ赤字公債ノ額ヲ決定スル時ニ十分歳入ノ方ヲ調ベテアルノカ、相當歳入ヲ見込ミ得ラレル自然増收ガアルデヤナイカ、之ニ對シ政府ハドウ云フ豫算ノ編成ノ仕方ヲ致シテ居ルカラ問フ、斯ウ云フ意味ノ御質問ガアツタ、ソレカラ時局ハ新體制ヲ叫バレテ居ル、自由主義、個人主義ハ改メヨウト言ハレテ居ル、此ノ時局ニ於テ政府ハ局課ヲ増設シ、或ハ事實上ニ必要以上ノ人件費ヲ要求致シテ、其ノ殘ツタ金ヲ他ニ流用スルト云フヤウナコトヲ聞イテ居ルガ、ソレデハ政府ガ國民ニ範ヲ示サナケレバナラスニ拘ラズ、政府自ラ自由主義、個人主義ヲ發揮シテ居ルデヤナイカ、斯様ナコトハナイカト云フ意味ノ質問、ソレカラ赤字公債ガ段々ト高マツテ來テ、相當發行サレテ行クガ、政府ハ之ヲ消化スルニ當ツテ、國民ニ此ノ公債ヲ消化スル力ヲ與ヘテ居ルカ、言葉ヲ換ヘテ申シマスルト、國民ガ之ヲ消化スル所得ハドレ程アルト云フ見込デアアルカ、昨年十二月末日ノ日本銀行ノ公債ノ殘高、賣レナイ公債ガ三十六億三千万圓アルデハナイカ、果シテ政府ハ今發行スル公債ヲ、國民ガ自力ニ依ツテ消化スル見透シガ付イテ居ルカドウカト云フ意味ノ質問、ソレカラ政府ハ公債ガ段々ト高マツテ來ルガ、臨時的ノモノハ是

ハ別デアルガ、一般會計等ノモノニ付テハ、期限ガ來レバ償還シナケレバナラヌガ、是ハ平素ニ用意シテ行ク必要ガアルガ、其ノ用意ハ宜イカ、斯ウ云フ意味ノ質問ガアリマシタ

是等ニ對スル政府ノ答辯ハ、赤字公債ヲ發行スル途ハ開イテアルケレドモ、時局ニ便乘シテ豫算ヲ要求サレルヤウナコトハ認メタコトハ、ナイ、政府ハ豫算編成ニ當ツテハ、成ベク赤字公債ノ高ヲ少クスル爲ニ色々努力ヲ致シテ居ル、又公債財源ニ依ツテ賄ツテ居ル時代デアルカラ、苟クモ收入ニ見込マレ得ル見透シノ付クモノハ、收入ニ計上シテ居ツテ、特ニ豫算ノ實行ニ當ツテハ注意ヲ致シタ、假令如何ナル方途ニ使ハレルモノデモ、一々之ニ檢討ヲ加ヘテ政府資金ヲ出シテ居ル、個人主義、自由主義ト云フヤウナ虞ノナイヤウニ注意ハ致シテ居ルガ、何分事變下デアリマスルノデ、事務ガ輻湊シテ參リマスカラ、局課ヲ新設致シマシテ、横ノ連絡ヲ取ツテ事務ノ能率ヲ擧ゲルヤウニ努メテ居リマスガ、後々ノ事務ノ見透シヲ付ケマシテ、人件費ヲ要求スルノデアリマスカラ、或ハ是ガ一致シナイ場合ガアルカモ知レヌケレドモ、御諒承願ツテ置キタイ、又一般會計ト申シマスルガ、昭和十六年度ノ一般會計ヲ見マスレバ、七億圓昨年度ヨリ殖エテ居ル、其ノ七億圓殖エテ内譯ヲ申シマスルト、公債費、公債ノ未拂其ノ他、是等ニ要スル金ガ約一億五千万圓、ソレカラ恩給ノ殖エタノガ五千万

圓以上アル、此ノ二口ダケデモ二億圓ノ金額ガ一般會計デ殖エテ行クノデアリマシテ、隨テ一般會計ト申シマスケレドモ、臨時部ノ豫算ノ跡始末ヲ一般會計デヤツテ居ルノデアリマスカラ、臨時部ノ豫算ト配合ハセテ考ヘマスレバ、一般會計ノ豫算ト云フモノハサウ減ツテ參リマセヌ、斯ウ云フ所カラ考ヘテ行キマス、此ノ償還ニ當ツテモ平素心掛ケテハ居ルケレドモ、財政ノ餘裕ヲ見ルマデハ具體化ハ致シマセヌト云フ意味ノ答辯ガアリマシタ、ソレカラ公債ノ保有等ニ付テ質問ガアリマシテ、今公債ハ普通銀行、貯蓄銀行、特別銀行ノ此ノ三銀行

デ九十六億二千三百万圓保有シテ居ル、ソレカラ金銭信託デ三億百万圓、生命保險會社ノ責任準備金デ以テ、是ハ大體デアリマスガ、九億七千七百万圓、政府筋其ノ他官廳デ持ツテ居ル公債ノ高ハ八十一億八千二百万圓、此ノ政府筋、官廳ノ持ツテ居ルモノハ、昨年度ニ比較スルト二十二億二千八百万圓殖エテ居リマス、斯ウ云フ答辯ガアリマシタ、又公債消化ト國民ノ消化力ニ付テハ、是ハ國民ノ所得ハ公表サレナカツタガ、唯精神力ト活動力ニ依ツテ消化シテ貰フヨリ外ニ仕方ガナイト云フ意味ノ答辯ガアリマシタ、ソレカラ朝鮮事業、臺灣事業ニ付テ御質問ガアリマシテ、其ノ事業ノ見透シ等ニ付テ色々方面カラ御質問ガアリマシタガ、之ニ對シ朝鮮ノ當局ハ、金、鐵、鉛、人造石油、是等ハ國內デ使用スル約過半數ハ朝鮮ニ於テ出來ル考ヘデアアル、硫安ガ三割二

分、「アルミニウム」ガ一割二分、「マグネシウム」ガ四割三分、電力ガ一割九分、人絹用「バルブ」ガ一割二分位ノ生産擴充ニ達スルノデアツテ、此ノ經費ヲ有意義ニ使フ積リデアルト云フ答辯ガアリマシタ、又臺灣ノ當局カラ御答辯ガアツテ、燃料、鐵道事業、食糧——是ハ砂糖ト米、是等ノモノノ生産擴充ハ豫想通りニ參ツテ居リマス、又臺灣ノ東ノ方ノ開發ガ困難デアリマスガ、是モ此ノ費用ヲ有意義ニ使ウテ、漸次開發ヲ行ツテ行ク考ヘデアルトノ、詳シキ御説明ガアリマシタ

以上ノ外、公債消化ニ付テ委員カラ色々熱心ナル御質問ガアツテ、或ハ貸家主ノ取ツテ居ル、敷金ヲ全部公債ニ換ヘテシマウタラ、餘程公債ハ消化スルデハナイカ、或ハ内地ト外地トノ事情ガ異ツテ居ルカラ、異ツタ公債消化方法ヲ政府ガ考ヘテ、外地及ビ支那、滿洲方面ニ公債ノ消化ヲ圖ツタラドウカ、或ハ公債消化ニハ金利ノ値下ゲノ關係ガ重大デハナイカ、或ハ貯蓄ノ目標ハ何處ニ置イテ居ルカト云フヤウナ御質問ガ、色々方面カラ熱心ニアリマシタガ、政府ハ之ニ對シ一々熱意ヲ以テ答辯サレマシタ、之ヲ申上ゲマスト大分時間ガ掛リマスノデ、洵ニ恐入リマスガ、速記録ニ於テ御覽願ヒタイト存ジマス

マシタ所、委員會ハ全會一致ヲ以テ原案ノ通り可決致シマシタ、以上簡單ナガラ御報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 六案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ六案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ六案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ六案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

昭和十六年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

第二讀會(確定議)

昭和十五年法律第七號中改正法律案(造幣局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル經費ニ關スル件) 第二讀會(確定議) 昭和十三年法律第二十三號中改正法律案(關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事資

特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件)

第二讀會(確定議)

朝鮮專業公債法中改正法律案

第二讀會(確定議)

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案

第二讀會(確定議)

臺灣專業公債法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマ

セヌ、第三讀會ヲ省略シテ、六案トモ委員

長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急勸議ヲ

提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、留萌

鐵道株式會社及新潟臨港開發株式會社所屬

鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、田

名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止

ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律

案、富士身延鐵道株式會社及白棚鐵道株式

會社所屬鐵道買收ニ關スル法律案、及ビ大

正九年法律第五十六號中改正法律案ノ四案

ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、

其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ勸議ニ御異

議アリマセスカ

(異議ナシ)ト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——留萌

鐵道株式會社及新潟臨港開發株式會社所屬

鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、田

名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止

ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律

案、富士身延鐵道株式會社及白棚鐵道株式

會社所屬鐵道買收ニ關スル法律案、大正九

年法律第五十六號中改正法律案、右四案ヲ

一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長

ノ報告ヲ求メマス——委員長星島二郎君

留萌鐵道株式會社及新潟臨港開發株式

會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關ス

ル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經

營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關

スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

富士身延鐵道株式會社及白棚鐵道株式

會社所屬鐵道買收ニ關スル法律案(政

府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

大正九年法律第五十六號中改正法律案

(政府提出)

報告書

留萌鐵道株式會社及新潟臨港開發株式

會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關ス

ル法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十六年二月三日

委員長 星島二郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經

營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關

スル法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十六年二月三日

委員長 星島二郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一富士身延鐵道株式會社及白棚鐵道株式

會社所屬鐵道買收ニ關スル法律案(政

府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十六年二月三日

委員長 星島二郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一大正九年法律第五十六條中改正法律案

(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(政

府提出)

報告書

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十六年二月三日

委員長 星島二郎

衆議院議長小山松壽殿

(星島二郎君登壇)

○星島二郎君 只今議題トナリマシタ、留

萌鐵道株式會社及新潟臨港開發株式會社所

屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案外

三件ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シ

マス、此ノ委員會ニ付託サレマシタ四案ノ

内容ハ、一ハ地方鐵道ノ買收デアリマス、

一ハ軌道經營廢止ニ對スル補償デアリマス、

今一ツハ北海道拓殖鐵道ニ對スル補助金ノ

期間延長デアリマスガ、買收ニ付キマシテ

ハ、留萌鐵道及ビ新潟臨港鐵道ノ所屬鐵道

ト、目下借入經營中ノ富士身延鐵道及ビ白

棚鐵道ノ買收デアリマス、是ハ生産擴充ト

輸送力ノ強化ヲ圖ル爲ニ、目下必要ト致シ

マシテ買收スルコトニ政府ノ案ヲ見タノデ

アリマス、補償ニ付キマシテハ、青森縣ノ

田名部鐵道ハ、國有鐵道ガ此ノ軌道ト並行

シテ出來タ爲ニ、經營ガ困難ニナリマシテ

廢止サレタ、之ニ對シ補償ラシテヤラウト

云フノデアリマス、又北海道ノ拓殖鐵道ハ

補助期間ガ滿了トナツタガ、尙ホ補助スル

ノ必要アリトシテ此ノ期限ヲ延長シヨウ、

斯ウ云フコトデアアルノデアリマスガ、委員

會ハ一月三十日カラ二月三日マデ三回ニ互

リマシテ質疑應答ガ行ハレマシタガ、是ハ

一切速記録ニ讓ルコトト致シマス

唯其ノ中デ主ナル質疑ノアリマシタ點ハ、

政府ハナゼ地方鐵道ヲモット積極的ニ計畫

的ニ買收シテ行カスカト云フヤウナ質問ガ

アツタノデアリマスガ、公債發行ノ關係モ

アルシ、生産擴充ト輸送力ノ強化ノ最モ緊

要ナ分カラ、順次ヤツテ行キタイト云フヤ

ウナ答辯デアリマシタ、尙ホ國有鐵道全般

ニ互ル所ノ經營方針ヤ、建設方針ヤ、或ハ

民間自動車ノ統合問題、或ハ下關、東京間

ノ高速鐵道ヲ、モット早く出來ナイカト云

ツタヤウナコトニ付キマシテ、實ニ有益ナ

ル質疑應答ガアリマシタ

斯クシマシテ質問ハ終了シ、討論ニ入りマシテ、鹽川委員ヨリ買収、補償ニ關スル件ニ付キマシテ、原案賛成ノ御意見ガ出マシタ、手代木委員ヨリ北海道拓殖鐵道ノ補助期間延長ニ關スル原案賛成ノ御意見ガアリマシタ、採決ヲ致シマシタ所、全會一致右四案共原案通り可決サレマシタ、此ノ段御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 四案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ四案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ四案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ四案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

留萌鐵道株式會社及新瀉臨港開發株式會社所屬鐵道買収ノ爲公債發行ニ關スル法律案 第二讀會(確定議)

田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案 第二讀會(確定議)

富士身延鐵道株式會社及白棚鐵道株式會社所屬鐵道買収ニ關スル法律案

第二讀會(確定議) 大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)

第二讀會(確定議) ○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第一、軍機保護法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——及川海軍大臣

第一 軍機保護法中改正法律案(政府提出) 軍機保護法中左ノ通改正ス

第七條中「千圓以下ノ罰金」ヲ「三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第十二條第一項第二號中「撮影」ヲ「撮影若ハ模寫」ニ改ム

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣(及川古志郎君) 只今議題ニ上リマシタ軍機保護法中改正法律案ハ、時局ニ鑑ミマシテ、同法第七條ノ秘密保護ニ關シ過失ニ因ル罪ノ罰則ノ強化ト、同法第十二條ノ寫眞撮影ノ禁止制限ニ關シマシテ、更ニ模寫ノ禁止制限ノ規定ヲ補足スルノ必要ヲ認メ提案致シタ次第デゴザイマス、何卒慎重御審議ノ上速カニ御協賛アランコト

ヲ御願ヒ致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、兵役法中改正法律案外二件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第二及ビ第三ハ、便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、日程第二、衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案、日程第三、府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——平沼內務大臣

第二 衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第三 府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案 現任衆議院議員ノ任期ハ之ヲ一年延長ス

前項ノ場合ニ於テハ衆議院議員選舉法第七十五條及第七十九條ノ選舉ハ之ヲ行ハズ

衆議院議員ノ數ガ衆議院議員選舉法別表ニ掲グル各選舉區ノ議員數ヲ合算シタル數ノ三分ノ二ニ滿クザルニ至リタルトキハ之ガ補充ノ爲選舉ヲ行フ

前項ノ選舉ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案

昭和十七年三月三十一日迄ニ任期滿了スベキ府縣會議員又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員ノ任期ハ昭和十七年四月一日迄之ヲ延長ス

昭和十七年三月三十一日迄ニ任期滿了スベキ市町村會議員、全部事務ノ爲ニ設クル町村組合ノ組合會議員又ハ町村制ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル町村會若ハ全部事務ノ爲ニ設クル町村組合ノ組合會議員ノ任期ハ昭和十七年五月二十日迄之ヲ延長ス

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ選舉ヲ行フベキ事由アルモ其ノ事由ガ議員ノ任期滿了前六月以内ニ生ジタルニ因リ行ハザル選舉ヲ本法施行ニ因リ行フ場合ニ於テハ其ノ選舉ノ期間ハ本法施行ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

本法ハ本法施行前議員ノ總選舉ノ告示ア

ズ

ズ

ズ

ズ

リタル場合ニハ之ヲ適用セズ

(國務大臣男爵平沼騏一郎君登壇)

○國務大臣(男爵平沼騏一郎君) 只今議題ト相成リマシタ兩案ニ付キマシテ、提案ノ理由並ニ法律案ノ大要ヲ御説明致シマス

先ヅ衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案ニ付キマシテ御説明ヲ致シマス、最近ノ我が國內外ノ情勢ヲ見マスルニ、眞ニ有史以來ノ非常時局ニ直面致シテ居リマシテ、益々國家總動力發揮ノ國防國家體制ノ確立ヲ必要ト致シテ居ルノデアリマス、然ルニ最近ノ國際情勢ハ更ニ緊迫ノ度ヲ加フル状態ニ立至リマシタノデ、政府ハ諸法律案等ノ提出モ、成ベク當面ノ戰爭遂行、軍備ノ充實ニ、眞ニ緊要ナルモノノミニ限定致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ豫テ提案ノ豫定デアリマシタ衆議院議員選舉法中改正法律案モ、其ノ提案ヲ見合セマシタ次第デアリマス、然ルニ本年四月末ニハ衆議院議員ノ總選舉ガ行ハルル管ニナツテ居リマスルガ、斯カル情勢ノ下ニ於キマシテ、假令短期間デアリマシテモ、國民ヲシテ總選舉ニ没頭セシメマスルコトハ、選舉ノ性質上、不必要ニ兎角ノ論議或ハ摩擦、競争ヲ誘發スルノ虞ガアリマシテ、斯クノ如キコトハ各種ノ方面カラ見マシテ、甚ダ面白クナイ結果ヲ招來スルノ虞ガアルノミナラズ、殊ニ官民舉ツテ國防國家體制ノ整備ニ寸時ヲ惜シンデ邁進スベキ昨今ノ情勢ニ照シマシテモ、舉國一致國難克服ニ當ル所以デナイノデアリマス、何レニ致シマシテモ、

今日ノ緊迫セル時局ノ下ニ於テ總選舉ヲ行ヒマスルコトハ、適當デナイト考ヘマスルノデ、茲ニ衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス

以下法律案ノ内容ヲ申上ゲマスレバ、以上ノ理由ニ依ツテ議員ノ任期ヲ一箇年延長スルト云フノガ、本案ノ骨子デアリマスガ、同様ノ理由ニ依リマシテ、其ノ間ハ再選舉及ビ補關選舉モ之ヲ行ハナイコトニ致シテ居リマス、唯現任議員ガ餘リニ少數ニナリマスルト、議會ノ運用ニ支障ヲ來ス虞ガアリマスノデ、現任議員ノ數ガ議員總定數ノ三分ノ二ニ滿タザルニ至リマシタ時ニハ、其ノ補充ノ爲メ選舉ヲ行フコトニ致シテ居ルノデアリマス

次ニ府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由並ニ法律案ノ大要ヲ御説明致シマス、本案ノ根本趣旨ハ、衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案ト同様デアリマス、即チ我が國內外ノ緊迫セル狀況ニ鑑ミマシテ、地方議會議員ノ任期ヲ延長シ、今後大體一年間ハ總選舉ヲ執行セザルコトト致シマシテ、國民間ニ不必要ナル摩擦、競争ノ惹起スルヲ避クルト共ニ、舉國一致寸時ヲ惜シンデ國防國家體制ノ整備ニ邁進セントスルノデアリマス

本案ノ大要ヲ申上ゲマス、先ヅ本案ノ適用ヲ受ケマス議員ノ範圍ハ、府縣會議員、市町村會議員、市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員、北海道一級町村及ビ二級町村

ノ町村會議員、並ニ全部事務ノ爲ニ設クル町村組合ノ組合會議員デアリマス、是等ハ地方自治ノ基本的團體ノ議會ノ議員デアリマシテ、衆議院議員ニ準ジマシテ取扱フノヲ適當トスルノデアリマス、是等ノ議員デアツテ、明年三月三十一日マデハ任期滿了スベキモノハ、本法案ニ依リマシテ任期ガ延長サレルノデアリマスガ、任期ヲ延長致サレマスル期間ハ、府縣會議員、區會議員ト市町村會議員等トノ間デハ異ツテ居リマス、斯クノ如ク區別ヲ付ケマシタ理由ハ、任期延長ノ結果一齊ニ行ハレマスルベキ選舉ガ、或ハ全ク重複シテ行ハレ、或ハ極メテ接近致シテ執行サレマスルコトハ、色々ノ點カラ不都合デアリマスルカラ、之ヲ避クル爲メデアリマス、次ニ地方議會ニ付キマシテハ、再選舉、補關選舉等ハ、是ガ執行ヲ停止スルコトニハ致シテ居リマセズ、是等ノ選舉ハ衆議院議員又ハ地方議會ノ總選舉ニ比シマスレバ、選舉ノ規模ニ於キマシテ、又競争ノ程度ニ於キマシテ遙カニ低ク、之ヲ執行致シマシテモ任期延長ノ趣旨ニ反スルコトハナイト認メタノニ依ルノデアリマス

以上ヲ以チマシテ兩案ノ大體ノ説明ト致シマス、何卒御審議ノ上御協贊アラントコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第二及ビ第三ノ兩案ヲ

一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

四、昭和十二年法律第九十二號中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス——小林商工大臣

第四 昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案

昭和十二年法律第九十二號中左ノ通改正ス

第五條中「一年」ヲ「七年」ニ、「五千圓」ヲ五萬圓ニ改ム

第五條ノ二 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第七條中「前三條」ヲ「第四條、第五條又ハ第六條」ニ改ム

第八條中「本法ノ罰則」ヲ「前五條ノ罰則」ニ改ム

第九條 本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員又ハ使用人其ノ擔當スル統制事務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ

ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ
第十條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣小林一三君登壇)

○國務大臣(小林一三君) 只今議題トナリマシタ昭和十二年法律第九十二號中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上げマス、此ノ法律ハ御承知ノ通り輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ト稱セラレルノデアリマシテ、支那事變ノ勃發ニ因リ、我が國經濟界ニ臨時必要ノ措置ヲ講ズル必要ガ起リマシタノデ、昭和十二年第七十二回帝國國會ノ協賛ヲ得テ公布セラレ、昭和十三年一部改正ノ上今日ニ至ツテ居ルノデアリマス、事變下ニ於ケル經濟統制ニ關スル諸方策ハ、主トシテ本法律ト昭和十三年公布セラレマシタ國家總動員法ノ運用ニ依ツテナサレテ居ルノデアリマス、經濟統制ニ當リマ

シテハ、極力經濟界ノ實情ニ即シタル方策ヲ講ジマスルト共ニ、其ノ實施ニ當リマシテモ國民ノ自發的協力ヲ期待致シテ居ルノデアリマスガ、經濟統制違反件數ガ現ニ相當多數ニ上リ、而モ一度處罰ヲ受ケタニモ拘ラズ、尙ホ再三違反ヲ繰返ス者スラ少クナイ實情デアリマシテ、經濟統制ノ效果ヲ減殺シテ居リマスコトハ、事變下眞ニ遺憾ニ堪ヘヌ次第デゴザイマス、經濟統制違反ヲ敢テスル事情ハ、色々ノ理由ガアラウト思ヒマスルガ、現在ノ罰則ハ犯罪狀況ニ照シ輕キニ失スル點ガゴザイマスノデ、此ノ際同法ノ罰則ノ一部ヲ強化致シ、以テ戰時經濟政策ノ實施ヲ確保致シタイト存ズル次第デゴザイマス、是レ本法律案ヲ提出致シマシタ所以デゴザイマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アランコトヲ御願ヒ申上げマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ議長指名二十七名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第五及第六ハ便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第五及第六ハ便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス

ス、仍テ日程第五、相續稅法中改正法律案、日程第六、臨時利得稅法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——河田大藏大臣

第五 相續稅法中改正法律案(政府提出)

第六 臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

相續稅法中改正法律案 第一讀會

相續稅法中左ノ通改正ス

第十七條ノ二 相續稅ヲ課スヘキ相續財產ノ價額中不動産ノ價額カ相續財產ノ價額ノ二分ノ一ヲ超ユル場合ニ於テ相續稅額カ千圓以上ナルトキハ納稅義務者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ相續財產タル不動産ニ依ル相續稅ノ物納ヲ求ムルコトヲ得但シ本法施行地ニ住所ヲ有セサル者ニ付開始シタル相續ニ對スル相續稅ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

納稅義務者前項ノ規定ニ依リ相續稅ノ物納ヲ求ムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ申請スヘシ但連帶納付ノ責アル納稅義務者ニ在リテハ其ノ一人ヨリ申請スルヲ以テ足ル

政府ハ納稅義務者ノ物納ニ充テムトスル不動産カ管理又ハ處分ヲ爲スニ不適當ト認ムルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ其ノ變換ヲ命シ又ハ物納ヲ許可セサルコトヲ得

政府ハ相續財產ノ狀況ニ依リ税金ノ納付カ容易ニシテ物納ヲ許可スルノ必要ナシト認ムルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ之ヲ許可セサルコトヲ得

納稅義務者相續稅ノ物納ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ物納ニ充テムトスル不動産ノ變換ヲ命セラレタルトキ又ハ物納ヲ許可セラレザルトキハ當該相續稅ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ拘ラス其ノ旨ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ年賦延納ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前條第四項ノ規定ハ第二項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條第四項中「第十條」ノ下ニ「及第十七條ノ二」ヲ加フ

附則
本法ハ昭和十六年四月一日以後開始シタル相續ニ付之ヲ適用ス

國有財產整理資金特別會計法第二條但書中「國有林野」ノ上ニ「相續稅物納財產」ヲ加フ

臨時利得稅法中改正法律案

臨時利得稅法中左ノ通改正ス

第三十一條第三項中「臺灣」ノ下ニ「關東州」ヲ加フ

附則
本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣河田烈君登壇)

○國務大臣(河田烈君) 只今日程ニ上リマ

政府ハ相續財產ノ狀況ニ依リ税金ノ納付カ容易ニシテ物納ヲ許可スルノ必要ナシト認ムルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ之ヲ許可セサルコトヲ得

シタ相續稅法中改正法律案外一件ニ付キマシテ大體ノ御説明ヲ申上ゲマス

先ヅ相續稅法中改正法律案ニ付キテ申上ゲマス、御承知ノ如ク最近數次ノ増稅ニ際シマシテ、相續稅ニ付キマシテモ増徴ガ行ハレマシテ、其ノ負擔ハ相當加重セラレテ參ツタノデゴザイマス、然ルニ相續稅ニ付テハ、相續財產中不動産ノ占ムル割合ガ比較的多イ場合ニハ、納稅上困難ヲ感ズル者モアリマス、斯カル場合ノ救濟方法ト致シマシテ、現在既ニ相當長イ年賦延納ノ制度ガ設ケラレテ居ルノデゴザイマスガ、是ノミヲ以テシテハ十分ナラザルモノガゴザイマス、斯カルガ故ニ相續稅ニ付テハ、特ニ物納制度ヲ認ムベキデアルト云フ議論ガ從來カラアルノデゴザイマス、殊ニ昨年ノ第七十五回帝國議會ニ於キマシテ、稅制改正案審議ニ當リマシテ、此ノコトガ強ク要望セラレタヤウナ次第デゴザイマス、元來租稅ニ付キマシテハ、物納ノ制度ヲ認ムルコトハ餘程ノ例外デゴザイマス、歲入制度ノ上カラ、稅務行政ノ上カラ、色々問題ハアルノデゴザイマスルガ、當局ト致シマシテハ是等ノ論議ニ顧ミマシテ、相續稅物納制度調査會ヲ設ケマシテ慎重ニ考究ヲ重ネマシタ結果、此ノ際相續財產中不動産ノ占ムル割合ガ比較的多キモノニハ、相續財產タル不動産ニ依ル物納ヲ認メマシテ、此ノ際多クノ懸案ヲ解決スルノガ適當ト認メマシタノデ、茲ニ相續稅法中改正法律案トシテ提案致シタ次第デゴザイマス、案ノ詳細ニ付

キマシテハ、他ノ機會ニ於テ更ニ申上ゲタイト存ジマス

次ニ臨時利得稅法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、關東州ニ於キマシテハ、從來臨時利得稅ハ法人ニ對シテノミ課稅ヲシテ參ツタノデゴザイマスガ、今回新クニ個人ニ對シテモ課稅スルコトト相成リマシタノデ、關東州ニ住所ヲ有シ、又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ガ、本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スル場合ニ於テ生ズベキ重複課稅ヲ避ケル爲ニ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラントヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第五及第六ノ兩案ハ一括シテ政府提出、關稅定率法中改正法律案外一件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第七、帝都高速度交通營團法案ノ第一讀會ヲ開キマス——小川鐵道大臣

第七 帝都高速度交通營團法案(政府提出) 第一讀會

帝都高速度交通營團法案

帝都高速度交通營團法

第一章總則

第一條 帝都高速度交通營團ハ東京市及其ノ附近ニ於ケル交通機關ノ整備擴充ヲ圖ル爲メ地下高速度交通事業ヲ營ムコトヲ目的トスル法人トス

帝都高速度交通營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ニ關聯スル事業ヲ營ミ又ハ之ニ投資スルコトヲ得

第二條 帝都高速度交通營團ノ資本金ハ六千萬圓トシ之ヲ六十萬圓ニ分チ一口ノ出資金額ヲ百圓トス但シ資本金ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 帝都高速度交通營團ノ出資者ハ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノタルコトヲ要ス

第四條 帝都高速度交通營團ハ出資ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ出資證券ヲ發行ス

第五條 政府ハ四千萬圓ヲ限り帝都高速度交通營團ニ出資スルコトヲ得

前項ノ出資ハ帝國鐵道會計ノ資本勘定ノ歲出トシ之ニ因リ取得シタル出資證券ハ同會計ノ資本所屬物件トス

第六條 政府又ハ公共團體ガ帝都高速度交通營團ニ出資シタル場合ニ於テハ其

ノ引受ケタル出資ノ出資金拂込ハ其ノ他ノ出資ノ出資金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第七條 帝都高速度交通營團ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

出資者ハ帝都高速度交通營團ニ拂込ムベキ出資額ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 出資者ハ帝都高速度交通營團ノ承認ヲ經テ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第九條 拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ帝都高速度交通營團ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ヲ請求ヲ爲シタルニ拘ラズ出資者ガ拂込ヲ爲サザルトキハ帝都高速度交通營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ出資者ノ持分ヲ處分スルコトヲ得

帝都高速度交通營團ハ持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ヨリ滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額ヲ控除シタル金額ヲ從前ノ出資者ニ拂戻スコトヲ要ス

持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タザル場合ニ於テハ帝都高速度交通營團ハ從前ノ出資者ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ帝都高速度交通營團ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

出資者ガ第一項ノ期間内ニ拂込ヲ爲サ

ザルトキハ帝都高速度交通營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間内ニ出資證券ヲ帝都高速度交通營團ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ帝都高速度交通營團ハ遲滞ナク失効シタル出資證券ノ番號竝ニ其ノ出資者ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

第十條 帝都高速度交通營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的
二 名稱

三 事務所ノ所在地
四 資本金額、出資及資産ニ關スル事項

五 役員及會議ニ關スル事項
六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 交通債券ノ發行ニ關スル事項
八 會計ニ關スル事項

九 公告ノ方法
第十條 帝都高速度交通營團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十二條 帝都高速度交通營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 帝都高速度交通營團ニ非ザル者ハ帝都高速度交通營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十四條 民法第四十四條、第五十條、第五十一條第一項、第五十四條及第五十七條竝ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ帝都高速度交通營團ニ之ヲ準用ス

第二章 役員
第十五條 帝都高速度交通營團ニ總裁副總裁各一人、理事五人以上及監事三人以上ヲ置ク

第十六條 總裁ハ帝都高速度交通營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ帝都高速度交通營團ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ帝都高速度交通營團ノ業務ヲ監査ス

第十七條 總裁、副總裁、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ジ總裁及副總裁ノ任期ハ五年、理事ノ任期ハ四年、監事ノ任期ハ三年トス

第十八條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 帝都高速度交通營團ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ事業經營ニ關スル重要事項ニ付總裁ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ三年トス

第三章 交通債券
第二十條 帝都高速度交通營團ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ交通債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條 交通債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名式ト爲スコトヲ得

交通債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十二條 帝都高速度交通營團ハ交通債券借換ノ爲一時第二十條ノ制限ニ依ラズ交通債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交通債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊交通債券ヲ償還スベシ

第二十三條 交通債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十四條 帝國鐵道會計ハ豫算ノ範圍内ニ於テ交通債券ノ引受ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ引受ニ要スル支出ハ同會計ノ資本勘定ノ歲出トシ其ノ引受ケタル交通債券ハ同會計ノ資本所屬物件トス

第二十五條 帝都高速度交通營團ニ於テ交通債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十六條 政府ハ交通債券ノ元利支拂ヲ保證スルコトヲ得

前項ノ保證ニ因ル政府ノ支出ハ帝國鐵道會計ノ收益勘定ノ歲出トス

第二十七條 帝都高速度交通營團ハ地下高速度交通事業又ハ之ニ關聯スル事業ノ讓受代價ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ支拂保證アル交通債券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第二十八條 交通債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二十九條 交通債券ノ所有者ハ帝都高速度交通營團ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨グルコトナシ

第三十條 所得稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ交通債券ニ之ヲ準用ス

第三十一條 本章ニ規定スルモノノ外交通債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 會計
第三十二條 帝都高速度交通營團ノ事業年度ハ四月ヨリ九月迄及十月ヨリ翌年三月迄トス

第三十三條 帝都高速度交通營團ハ其ノ

資本金ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ每事業年度ニ於テ準備金トシテ利益金ノ百分ノ十以上ヲ積立ツベシ

第三十四條 帝都高速度交通營團ハ拂込ミタル出資金額ニ對シ勅令ヲ以テ定ムル割合ヲ超エテ利益金ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

帝都高速度交通營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府ノ出資ニ對シ利益金ノ配當ヲ減額シ又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第五章 監督及助成

第三十五條 帝都高速度交通營團ハ主務大臣之ヲ監督ス

第三十六條 定款ノ變更及利益金ノ處分ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十七條 主務大臣ハ帝都高速度交通營團ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

主務大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ何時ニテモ帝都高速度交通營團ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十八條 主務大臣ハ帝都高速度交通營團ニ對シ地下高速度鐵道ノ建設又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第三十九條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ帝都高速度交通營團ニ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第四十條 帝都高速度交通營團ハ地下高速度鐵道ノ建設又ハ改良工事施行ノ爲

地下埋設物ノ移轉其ノ他ノ工事ノ施行ヲ必要トスル場合ニ在リテハ其ノ工事ノ施行方法又ハ其ノ工事ノ施行ニ因リテ生ズル損失ノ補償ニ付當該管理者ト協議ヲ爲スベシ但シ法令ニ別段ノ規定アル場合ハ其ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハハ協議調ハザルトキハ帝都高速度交通營團ノ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定中損失ノ補償ニ付不服アル者ハ協議ノ相手方ヲ被告トシ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴訟ハ裁定ノ效力ヲ停止セズ

第四十一條 帝都高速度交通營團ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間本法施行後新設又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ムル地下高速度鐵道事業ニ依ル所得ニ對スル法人税及營業稅ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ

但シ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル

行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第六節 罰則

第六節 罰則

第四十三條 帝都高速度交通營團本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第四十四條 帝都高速度交通營團ノ總裁、副總裁又ハ業務ヲ分掌スル理事第十八條ノ規定ニ違反シ他ノ職業ニ從事シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十五條 第十三條ノ規定ニ違反シ帝都高速度交通營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ帝都高速度交通營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十八條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ出資者ヲ募集スベシ

第四十九條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第五十條 出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ召集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ帝都高速度交通營團總裁ニ引渡スベシ

總裁前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

帝都高速度交通營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十一條 本法ニ規定スルモノノ外帝都高速度交通營團ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 陸上交通事業ヲ營ム會社ガ陸上交通事業調整法第二條ノ命令ニ依リ帝都高速度交通營團ニ事業ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ其ノ讓渡ニ因リ取得シタル交通債券ノ價格ニ關シ讓渡ヲ爲シタル事業年度ニ於ケル法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ付命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第五十三條 帝都高速度交通營團ニ事業ノ讓渡ヲ爲シテ解散シタル會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ時價ヲ以テ交通債券ヲ殘餘財産ノ分配金ニ充ツルコトヲ得

第五十四條 帝都高速度交通營團ハ陸上

離籍ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ前項ノ家族ニ限リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

戸籍法中改正法律案

第十四條第四項ヲ第五項トシ同項中「原本ト相違ナキ旨」ヲ下ニ「及ヒ請求ニ因リ除籍者ニ關スル記載ノ謄寫ヲ省略シタルトキハ其旨」ヲ加ヘ同條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

謄本ハ請求ニ因リ除籍者ニ關スル記載ノ謄寫ヲ省略シテ之ヲ作ルコトヲ得第十四條ノ二 戸籍ノ謄本又ハ抄本ノ記載事項ニ變更ナキコトノ證明ヲ受ケントスル者ハ手数料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

前條第二項、第三項及ヒ第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條ノ三 戸籍ニ記載シタル事項ニ付キ證明ヲ受ケントスル者ハ手数料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第十四條第二項、第三項及ヒ第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣柳川平助君登壇〕

○國務大臣(柳川平助君) 只今議題ニナリマシタ民法中改正法律案及ビ非訟事件手續法中改正法律案ニ付キマシテ提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、現行民法ニ於キマシテハ、家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其ノ居所ヲ定ムルコトヲ得ズ、若シ家族ガ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラザル時ハ、戸主ハ之ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ、自己ノ指定セル場所ニ居所ヲ移スベキ旨ヲ催告シ、家族ガ之ニ應ゼザル時ハ之ヲ離籍シ、其ノ家ヨリ除クコトガ出來ルコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、此ノ離籍ハ極メテ重大ナル制裁デアリマシテ、一家統率ノ必要上已ムヲ得ザル場合ニ於テノミ之ヲ行フベキコトハ勿論デアリマスガ、實際ニ於キマシテハ、是ガ不當ノ目的ヲ以テ濫用セラレルコトガ往々アルノデアリマシテ、爲ニ忌ムベキ紛争ヲ惹起スルガ如キ事例ガ、近時特ニ著シク増加致シマシタコトハ、甚ダ遺憾トスル所デアリマス、此ノ民法中改正法律案ハ斯ノ如キ弊害ヲ防止スル爲メ、家族ガ正當ノ理由ナクシテ戸主ノ居所移轉ノ催告ニ應ゼザル場合ニ、戸主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ離籍スルヲ得ルモノト改メ、即チ果シテ右正當ノ理由アリヤ否ヤニ付キ、先ヅ裁判所ノ適正ナル判斷ヲ受ケシメントスルモノデアリマス

關スル手續規定ヲ同法中ニ設ケントスルモノデアリマス、何卒十分御審議ノ上本案ニ對シ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ切望致ス次第デアリマス

次ニ戸籍法中改正法律案ニ付キマシテ其ノ提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、今次事變勃發以來戸籍事務ハ著シク繁忙ノ度ヲ加ヘ、特ニ諸般ノ身分證明ノ用ニ供スル爲メ、戸籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スル件數ガ年毎ニ激増致シマシテ、全國各地ノ戸籍吏員ハ其ノ處理ニ忙殺セラレ、延イテ是ガ處理ニ迅速ヲ缺キマシテ、一般國民ニ迷惑ヲ及ボスガ如キコト少カラザルハ、甚ダ遺憾ニ存スル次第デアリマス、本案ハ此ノ實情ニ鑑ミマシテ、戸籍法ニ改正ヲ加ヘ、戸籍ノ謄本ハ請求ニ依リ除籍者ニ關スル記載ノ謄寫ヲ省略シテ之ヲ作ルコトヲ得ルモノトシ、又既ニ有スル戸籍ノ謄本若シハ抄本ノ記載事項ニ、其ノ後變更ナキコトノ證明ヲ受ケ、又ハ戸籍ニ記載シタル事項ニ付キ證明ヲ受ケテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ受ケルニ代フルノ途ヲ開キマシテ、以テ事務ノ簡捷ト關係人ノ便益トヲ圖ラントスルモノデアリマス、何卒十分御審議ノ上本案ニ御協賛アラント切望致ス次第デアリマス

(拍手)

○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮り致シマス

○服部崎市君 日程第八乃至第十ノ三案ハ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、兵役法中改正法律案、陸軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案及ビ海軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案ノ三案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ——兵役法中改正法律案、陸軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案、海軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長漢那憲和君

○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮り致シマス

○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮り致シマス

兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

陸軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

海軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月四日

委員長 漢那 憲和

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 陸軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月四日

委員長 漢那 憲和

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 海軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

候此段及報告候也

昭和十六年二月四日

委員長 漢那 憲和

衆議院議長小山松壽殿

(漢那憲和君登壇)

○漢那憲和君 只今議題トナリマシタ兵役法中改正法律案外二案ニ付テ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス

委員會ハ去ル二日ニ開會致シマシテ、委員長及ビ理事ノ選舉ヲ行ヒ、委員長ニ不肖私、理事ニ伊藤東一郎君、小山田義孝君、最上政三君及ビ依光好秋君ガ選任セラレマシタ、引續キ三日及ビ四日ニ互リ慎重ニ審議致シマシテ、委員諸君ト政府委員トノ間ニ極メテ熱心ナル質問應答ガアリマシタガ、今其ノ主要ナル部分ヲ申上ゲマスルト、第一ハ徵兵適齡ヲ低下シテハドウカト云フ質問ニ對シ、政府ハ青年ノ心身發達ノ一般の狀況カラ見テ、現狀ガ適當デアルトノ答辯デアリマシタ、第二ハ、徵兵ヲ免レタ者ニ對シテ兵役稅ヲ課スル意思ガアルカドウカ、又徵兵ヲ免レタ者ニ對シ適當ナル勞務ヲ課スルノ意思ハナイカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ兵役稅ヲ課スルコトハ建軍ノ精神ニ反スルカラ反對デアルガ、徵兵ヲ免レタ者ガ自ラ進ンデ獻金等ヲナスコトハ、大イニ歡迎スル旨ノ答辯ガアリマシタ、又勞務ヲ課スルコトニ付テハ、兵役法ノ根本の改正ト共ニ目下研究中ナリトノ答辯デア

リマシタ、第三ハ現在約十萬ノ學生生徒等徵兵猶豫者ガアルノデアリマスガ、此ノ際

是等ノ中適當ナル者ヲ徵集シテ、幹部候補生ニ養成スル必要ハナイカト云フ質問ニ對シ、政府ハ現在ノ狀態ハソレ程マデニ切迫シテハ居ラナイ、又現在幹部ニ不足ハナイト云フ答辯デアリマシタ、第四ハ青少年運動ノ一端トシテ、學生生徒ガ、大政翼賛運動ヲナスコトニ付テ、軍部ハドウ考ヘテ居ルカト云フ質問ニ對シテ、軍部トシテハ反對デアルト云フ答辯デアリマシタ、第五ハ選舉法改正問題ニ關聯シテ、一部ニハ兵役ヲ了ヘタル者ニ特ニ選舉權ヲ與フベシトノ議論ガアルガ、之ニ對スル軍部ノ意向ハドウカト云フ質問ニ對シテ、神聖ナル兵役義務ノ代償トシテ選舉權ヲ與フベシトスルガ如キ意見ニハ、斷ジテ反對デアルトノ答辯デアリマシタ、第六ハ入營者ノ家族援助ノ爲ニ徵兵保險ノ制度ヲ制定スル意思ハナイカト云フ質問、ソレカラ應召者ノ歸還シタル者ノ待遇改善及ビ軍事扶助費ノ増加ノ意思ハナイカト云フ質問、竝ニ朝鮮、臺灣等ノ外地ニ兵役令ヲ施行スル意思ハナイカト云フ質問、是等ノ質問ニ對シテ、政府ハ何レモ其ノ必要ヲ認メテ研究中ナリトノ答辯デアリマシタ、以上ノ外幾多ノ質問應答ガアリマシタガ、是等ハ速記録ニ就テ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス

斯クノ如クシテ質問ヲ終了シ、討論ニ入リマシテ、伊藤東一郎君ヨリ兵役法ノ根本的改正ヲ希望スルト云フ意見ヲ述ベテ、サウシテ此ノ三案ニ贊成ノ意ヲ表サレマシタ、採決ノ結果、滿場一致三案トモ可決セラレタノデアリマス、右御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 三案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセスカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ勸議ニ御異議アリマセスカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ト致シマス

兵役法中改正法律案 第二讀會(確定議)

陸軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案 第二讀會(確定議)

海軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員

長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)是ニ
テ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事
日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是
ニテ散會致シマス
午後二時八分散會

衆議院議事速記録第九號中誤植

七二頁四段二二行「總員起立」ハ「起立總員」ノ誤
植

